## 第２学年 単元別学習内容一覧

2 年上巻

### ◎　わくわく算数学しゅう

| 目　　標 | 指導時数・時期 |
|---|---|
| ○　(何十何)±(何)の暗算について，図，式，ことばなどを関連づけて考えたり筋道立てて説明しあったりすることを通して 2 位数の加減計算についての理解を深めるとともに，学びを深めあう算数学習の進め方のよさに気づき今後の学習にいかそうとする態度を養う。 | 1 時間<br>2 学期制：4 月上旬<br>3 学期制：4 月上旬 |
| 評　　価 | |
| (知)・算数学習を進める手順や，ことばや図や式などを用いて考え，説明する仕方を知る。また，話し合いのよさなどを理解し，それらに必要な事柄を取り上げることができる。<br>(思)・図，式，ことばなどを関連づけて考えたり，わかりやすく筋道立てて説明したりすることができる。<br>(態)・学習の進め方に関心をもち，話しあい活動や発表に進んで取り組もうとする。学習を進める手順や話し合いの仕方などを知り，これからの学習にいかそうとする。 | |

| 小単元 | 時 | ページ | 目　　標 | 学習内容 | おもな評価規準 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 1 | 6～9 | ○100 までの数の(何十何)±(何十)の計算の仕方を考える学習を通して，自分で考えるときの方法や説明の仕方，話し合いのやり方等算数学習の進め方を知る。<br>○自分で考え，みんなで話し合う算数学習の進め方のよさに気づく。 | ・(何十何)±(何十)の暗算<br>・学習の進め方，ノートのかき方 | (思判表)(何十何)＋(何十)の計算の仕方を考えたり，ことばや図などを用いてわかりやすく順序立てて説明したりしている。《発言・観察》<br>(知技) (何十何)±(何十)の計算ができる。《観察・ノート》<br>(態度)学習を進める手順や話し合いの仕方などを知り，これからの学習にいかそうとする。《ノート》 |

### 1　ひょうと グラフ

| 目　　標 | 指導時数・時期 |
|---|---|
| ○　身のまわりの数量について，表やグラフを用いた分類・整理の仕方を理解し，それをもとに事象の特徴を考えたり説明したりすることを通して，統計的に問題解決する素地を育むとともにその方法を生活や学習に活用しようとする態度を養う。 | 3 時間<br>2 学期制：4 月上旬～4 月中旬<br>3 学期制：4 月上旬～4 月中旬 |
| 評　　価 | |
| (知)・身のまわりの事柄について，簡単な分類・整理の仕方を理解し，表やグラフに表したり，それをよんだりすることができる。<br>(思)・身のまわりの事柄について，表やグラフを用いてその特徴を考えることができる。<br>(態)・表やグラフのよさがわかり，表やグラフを通じて身のまわりの事柄の特徴を捉え表そうとする。 | |

| 小単元 | 時 | ページ | 目　　標 | 学習内容 | おもな評価規準 |
|---|---|---|---|---|---|
| じゅんび | — | 122 | ○既習事項の理解を確かめる。 | ・1 年「かずしらべ」 | |
| 課題設定 | 1 | 10～12 | ○好きな遊びの調べ方を考えることを通して，単元の課題をつかむ。 | ・好きな遊び調べによる学習の動機づけ<br>・分類・整理の仕方の考察 | (態度)どんな遊びが人気なのかを知りたいという意欲をもち，取り組もうとしている。《発言・観察》 |
| | 2 | 13 | ○表や●グラフについて知る。<br>○表や●グラフを用いて，分類・整理したり，そこから事柄の特徴を考えたりすることができる。 | ・表と●グラフのつくり方，よみ方<br>《ひょう，グラフ》 | (思判表)表やグラフから，事柄の特徴を考えたり説明したりしている。《発言・ノート》 |
| | 3 | 14～15 | ○調べたい観点を決めて，表や●グラフに整理することができる。<br>○データが同じでも観点が違えば，表や●グラフからわかることが違うことに気づくことができる。 | ・データ整理の観点に着目して，表やグラフを用いて特徴を考察すること | (知技)それぞれの観点で，表やグラフに整理することができる。《ノート》 |

### 2　時こくと 時間

| 目　　標 | 指導時数・時期 |
|---|---|
| ○　時刻や時間について，その意味の違いを理解し，時計を操作する活動を通して時間を求めたり午前・午後を用いて適切に時刻を表現したりすることができるようにするとともに，生活や学習に活用しようとする態度を養う。 | 4 時間<br>2 学期制：4 月中旬<br>3 学期制：4 月中旬 |
| 評　　価 | |
| (知)・時刻と時間のちがい，午前と午後の区別や正午の意味，日・時・分の関係がわかり，時計の針の動きをもとに，時刻や時間を求めることができる。<br>(思)・日常生活と関連づけて，時刻や時間について調べたり，午前や午後といった用語を適切に用いて表現したりすることができる。<br>(態)・1 日の生活時間に関心を持ち，いろいろな時刻や時間について進んで調べようとする。 | |

| 小単元 | 時 | ページ | 目　　標 | 学習内容 | おもな評価規準 |
|---|---|---|---|---|---|
| じゅんび | — | 122 | ○既習事項の理解を確かめる。 | ・1 年「なんじなんぷん」 | |
| 課題設定 | 1 | 16～17<br>18 | ○1 日の生活場面の時間を調べることを通して，単元の課題をつかむ。<br>○時計の針の動きから簡単な時刻と時間を求めることができる。 | ・1 日の生活時間による学習の動機づけ<br>・時刻と時間の意味，簡単な場合の時間の調べ方<br>《時，分，時こく，時間》 | (態度)時刻や時間の学習を生活と結びつけて，意欲的に取り組もうとしている。《発言・観察》<br>(知技)時刻や時間を正しくいうことができる。《発言》 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | 2 | 19 | ○1 時間が 60 分であることを知り，簡単な時間や時刻を求めることができる。 | ・1 時間＝60 分，1 時間をこえる時間の調べ方 | (知技)1 時間は 60 分であることを理解している。《発言・観察》<br>(思判表)時刻と時間の関係をもとに，特定の時間だけ前や後ろの時刻の求め方を考えている。《観察・ノート》 |
| | 3 | 20～21 | ○午前･午後の区別と正午の意味や 1 日は 24 時間であることを知り，午前・午後を使って時刻を表すことができる。 | ・午前と午後の区別，正午，1 日＝24 時間<br>《午前，午後，正午》 | (知技)1 日は 24 時間であることを理解し，午前や午後を使って時刻を表すことができる。《発言・観察》<br>(思判表)時刻と時間の関係をもとに，正午をまたいだときの時間の求め方を考えている。《観察・ノート》 |
| 学びのまとめ | 4 | 22～23 | ○学習内容の理解を確認する。 | ・評価とふりかえり | |

## 3　たし算と ひき算

| 目　　標 | 指導時数・時期 |
|---|---|
| ○　2 位数の加減計算について，(2 位数)±(1 位数)の暗算のしかたを考えたり説明したりすることを通して，簡単な加減計算を暗算でできるようにするとともに，生活や学習に活用しようとする態度を養う。 | 5 時間<br>2 学期制：4 月下旬<br>3 学期制：4 月下旬 |
| 評　　価 | |
| (知)・(2 位数)±(1 位数)の暗算の仕方を理解し，その計算を暗算でることができる。<br>(思)・既習の 1 位数の基本的なたし算やひき算をもとに，簡単なたし算とひき算の計算のしかたを考え，説明することができる。<br>(態)・簡単なたし算とひき算を暗算で計算するよさに気づき，(2 位数)±(1 位数)を暗算でしようとする。 | |

| 小単元 | 時 | ページ | 目　　標 | 学習内容 | おもな評価規準 |
|---|---|---|---|---|---|
| じゅんび | — | 123 | ○既習事項の理解を確かめる。 | ・1 年「たしざん」「ひきざん」「10 より大きいかず」 | |
| 課題設定<br>1　たし算 | 1 | 24<br>25 | ○既習の 17+2 をもとに 17+3 と式に表して単元の課題をつかむ。<br>○暗算の仕方を考え，(何十)＋(何)で和が何十になる暗算ができる。 | ・既習の(1 位数)＋(1 位数)によるたし算の暗算への動機づけ<br>・(2 位数)＋(1 位数)で(何十)になる暗算 | (思判表)(何十何)＋(何)で何十になる暗算の仕方を考えたり説明したりしている。《ノート・発言》<br>(知技)(何十何)＋(何)で何十になる暗算ができる。《ノート・発言》 |
| | 2 | 26～27 | ○　数のまとまりに着目して，(何十)＋(何)で繰り上がって何十何になる暗算ができる。 | ・(2 位数)＋(1 位数)で繰り上がりのある暗算 | (態度)(何十何)＋(何)の暗算の仕方を意欲的に声にだして身につけようとしている。《観察》<br>(知技)(何十何)＋(何)で繰り上がって何十何になる暗算ができる。《ノート・発言》 |
| 課題設定<br>2　ひき算 | 3 | 28<br>29 | ○既習の 19－8 をもとに 20－8 と式に表して単元の課題をつかむ。<br>○暗算の仕方を考え，(何十)－(何)で差が何十何になる暗算ができる。 | ・既習の(2 位数)－(1 位数)によるひき算の暗算への動機づけ<br>・(何十)－(1 位数)の暗算 | (思判表)(何十)－(何)で何十何になる暗算の仕方を考えたり説明したりしている。《ノート・発言》<br>(知技)(何十)－(何)で何十何になる暗算ができる。《ノート・発言》 |
| | 4 | 30～31 | ○　数のまとまりに着目して，(何十何)－(何)で繰り下がって何十何になる暗算ができる。 | ・(2 位数)－(1 位数)で繰り下がりのある暗算 | (態度)(何十何)－(何)の暗算の仕方を意欲的に声にだして身につけようとしている。《観察》<br>(知技)(何十何)－(何)で繰り下がって何十何になる暗算ができる。《ノート・発言》 |
| 学びのまとめ | 5 | 32～33 | ○学習内容の理解を確認する。 | ・評価とふりかえり，活用問題 | |

## 4　長　さ

| 目　　標 | 指導時数・時期 |
|---|---|
| ○　ものの長さについて，その比べ方や普遍単位の必要性を理解し，測定する活動を通してものさしで長さをはかることや単位を適切に用いて表現することができるようにするとともに，量感を身につけて生活や学習に活用しようとする態度を養う。 | 9 時間<br>2 学期制：5 月上旬～5 月中旬<br>3 学期制：5 月上旬～5 月中旬 |
| 評　　価 | |
| (知)・ものさしのしくみや使い方，長さの単位「cm」「mm」のよみ方やかき方，単位の関係を理解し，長さを「cm」「mm」の単位を用いて表すことができる。また，ものさしを使って，長さを測定したり直線をかいたりすることができる。<br>(思)・長さの普遍単位の必要性に気づく。また，量感をもとに長さを予想したり適切な単位を判断したりすることができる。<br>(態)・長さとその測定に興味をもち，いろいろなものの長さを調べたり，長さの量感を身近な場面でいかそうとしたりする。 | |

| 小単元 | 時 | ページ | 目　　標 | 学習内容 | おもな評価規準 |
|---|---|---|---|---|---|
| じゅんび | — | 123 | ○既習事項の理解を確かめる。 | ・1 年「おおきさくらべ」 | |
| (課題設定) | 1 | 34<br>35 | ○長さの比べ方を考えることを通して，単元の課題をつかむ。 | ・任意単位の測定による普遍単位の動機づけ | (思判表)共通の単位の必要性に気づいている。《観察・発言》 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | ○普遍単位の必要性に気づき，1cm のいくつ分で長さを表すことができる。 | ・長さの単位 cm を使った長さの表し方<br>《cm，センチメートル，たんい》 | (態度)長さ調べに意欲的に取り組もうとしている。《観察・発言》<br>(知技)cm 単位で長さを表すことができる。《発言・ノート》 |
| | 2 | 36～37 | ○ものさしで長さを正しく測ることができる。 | ・長さの測り方，cm での測定（ハガキなど） | (知技)ものさしを使って長さを正しく測ることができる。《観察・発言》 |
| | 3 | 38 | ○30cm ものさしの目盛りを正しくよむことができる。<br>○長さの単位 mm について知り，1mm のいくつ分で長さを測定することができる。 | ・普遍単位 mm の意味と mm までの測定，1cm＝10mm<br>《mm，ミリメートル》 | (知技)30cm ものさしの仕組みや 1cm＝10mm であることを理解している。《観察》<br>(知技)30cm ものさしで，mm 単位まで長さを測ることができる。《観察・発言》 |
| | 4 | 39 | ○直線の長さを測ることを通して，cm と mm の単位の関係の理解を深める。 | ・cm と mm の相互の関係<br>《直線》 | (思判表)cm と mm で表した長さを mm 単位でどう表せばよいかを考えたり説明したりしている。《ノート・発言》 |
| | 5 | 40～41 | ○ものさしを使った直線のかき方を理解し，示された長さの直線をかくことができる。 | ・ものさしを使った直線の作図 | (知技)ものさしを使って，7 ㎝の直線をかくことができる。《観察・ノート》 |
| | 6 | 42 | ○10cm の長さをテープなどでつくったり身のまわりから見つけたりして，10cm の量感を身につけることができる。 | ・10cm の長さづくり（量感），10cm の長ささがし | (態度)10cm の長さを手や指でつくり，量感を意欲的に身につけようとしている。《観察》 |
| | 7 | 43 | ○10cm の量感をもとにして，身のまわりの 10cm をこえるものの長さを見当づけたり測ったりする。 | ・身のまわりの長さの見当づけと測定 | (思判表)10cm の量感をもとに，身のまわりのものがどのくらいの長さかを判断している。《観察・ノート》 |
| | 8 | 44～45 | ○簡単な長さのたし算やひき算の計算ができる。 | ・長さの加減計算 | (思判表)単位に着目して，長さの計算の仕方を考えたり説明したりしている。《発言・ノート》<br>(知技)簡単な長さの計算ができる。《ノート》 |
| 学びの まとめ | 9 | 46～47 | ○学習内容の理解を確認する。 | ・評価とふりかえり，活用問題 | |

## 5　たし算と　ひき算の　ひっ算(1)

| 目　　標 | 指導時数・時期 |
|---|---|
| ○　2 位数の加減計算について，(2 位数)±(2 位数)の筆算の仕方や答えの確かめ方を考えたり説明したりすることを通して，計算の理解を深め，繰り上がりや繰り下がりのある筆算ができるようにするとともに，生活や学習に活用しようとする態度を養う。 | 11 時間<br>2 学期制：5 月下旬～6 月上旬<br>3 学期制：5 月下旬～6 月上旬 |

評　　価

(知)・筆算の仕方を理解し，(2 位数)±(2 位数)の筆算を，一の位から順に，繰り上がりや繰り下がりに気をつけて，手際よく計算することができる。
・加法及び減法に関して成り立つ性質を理解することができる。

(思)・十進位取り記数法の仕組みをもとに，(2 位数)±(2 位数)の筆算の仕方を考え，説明することができる。
・加法及び減法に関して成り立つ性質を使って，計算結果を確かめることができる。

(態)・答えの見当づけや筆算の仕方のよさに気づき，進んで取り組もうとする。
・加法及び減法に関して成り立つ性質を，計算結果の確かめにいかそうとする。

| 小単元 | 時 | ページ | 目　　標 | 学習内容 | おもな評価規準 |
|---|---|---|---|---|---|
| じゅんび | — | 124 | ○既習事項の理解を確かめる。 | ・1 年「100 までのかずのけいさん」「大きいかず」 | |
| (課題設定)<br>①たし算 | 1 | 48<br>49～50 | ○(2 位数)＋(2 位数)で繰り上がりのないたし算を筆算で計算する。<br>○筆算の仕方を考えていくという単元の課題をつかむ。 | ・計算棒を縦に並べる操作による筆算の動機づけ<br>・(2 位数)＋(2 位数)で繰り上がりのない筆算<br>《ひっ算》 | (態度)数を縦に並べて計算する仕方に関心をもち，その仕方を身につけようとしている。《観察》<br>(知技)繰り上がりのないたし算の筆算ができる《ノート》 |
| | 2 | 51 | ○(2 位数)＋(2 位数)で一の位に繰り上がりのある筆算ができる。 | ・(2 位数)＋(2 位数)で一の位が繰り上がる筆算 | (思判表)繰り上がりのあるたし算の筆算の計算の仕方を考えたり説明したりしている。《観察・発言》<br>(知技)繰り上がりのあるたし算の筆算ができる。《ノート》 |
| | 3 | 52 | ○(2 位数)＋(何十)の場合や繰り上がって一の位が空位になる場合，桁数のそろっていない場合の筆算ができる。 | ・19＋80，57＋13，43＋5，6+27 などの筆算 | (知技)空位のあるたし算の筆算ができる。《ノート・発言》<br>(思判表)空位のある場合も，それまでと同じように考えて筆算の仕方を見いだしている。《ノート・発言》 |
| | 4 | 53 | ○たし算について，交換法則が成り立つことを知る。<br>○交換法則を使って，たし算の答えを確かめることができる。 | ・加法の交換法則とそれを用いた答えの確かめ<br>《たされる数，たす数》 | (知技)たし算のきまりを理解し，たし算の答えを確かめことができる。《観察・発言》<br>(態度)たし算のきまりを使って，たし算の答えを進んで確かめようとしている。《観察》 |
| ●れんしゅう | 5 | 54 | ○学習内容を確実に身につける。 | ・練習 | |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| ②ひき算 | 6 | 55 | ○(2 位数)−(2 位数)で繰り下がりのない場合の筆算ができる。 | ・(2 位数)−(2 位数)で繰り下がりのない筆算 | (知技)繰り上がりのないひき算の筆算ができる。《ノート・観察》 |
| | 7 | 56 | ○(2 位数)−(2 位数)で繰り下がりのある場合の筆算ができる。 | ・(2 位数)−(2 位数)で十の位が繰り下がる筆算 | (思判表)繰り下がりのあるひき算の筆算の計算の仕方を考えたり説明したりする。《観察》<br>(知技)繰り下がりのあるひき算の筆算ができる。《観察・ノート》 |
| | 8 | 57 | ○(2 位数)−(2 位数)で繰り下がって答が 1 桁になる場合や(2 位数)−(1 位数)の筆算ができる。 | ・26−21，35−27，73−5 などの筆算 | (知技)空位のあるひき算の筆算ができる。《ノート・発言》<br>(思判表)空位のある場合も，それまでと同じように考えて筆算の仕方を見いだしている。《ノート・発言》 |
| | 9 | 58 | ○ひき算の答えにひく数をたすとひかれる数になることがわかる。<br>○たし算を使って，ひき算の答えを確かめることができる。 | ・加減の相互関係とそれを用いた答えの確かめ<br>《ひかれる数，ひく数》 | (知技)(答え)+(ひく数)＝(ひかれる数)になっていることを理解し，ひき算の答えを確かめることができる。《ノート・発言》<br>(態度)ひき算の答えを進んで確かめようとしている。《観察》 |
| ●れんしゅう | 10 | 59 | ○学習内容を確実に身につける。 | ・練習 | |
| 学びの まとめ | 11 | 60〜61 | ○学習内容の理解を確認する。 | ・評価とふりかえり，活用問題 | |

| ＊　ふくしゅう | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 小単元 | 時 | ページ | 目標 | 学習内容 | おもな評価規準 |
| | 1 | 62〜63 | ○既習事項の確認と持続 | ・復習 | |

| 思　図を　つかって　考えよう(1) | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 目　　標 | | | | | 指導時数・時期 |
| ○　文章題において，テープ図のかき方を理解し，問題場面を図に表して数量の関係に着目して解法を考えることを通して，たし算やひき算になる場面の理解を深めるとともに，用いた図や見方・考え方を生活や学習に活用しようとする態度を養う。 | | | | | 6 時間<br>2 学期制：6 月中旬<br>3 学期制：6 月上旬〜6 月中旬 |
| 評　　価 | | | | | |
| (知)・加法や減法の用いられる場について理解し，数量の関係を線分図(テープ図)に表すことができる。<br>(思)・逆思考を必要とする問題について，数量の関係を線分図(テープ図)に表して考えることができる。<br>(態)・線分図(テープ図)のよさに気づき，問題解決の際に進んで図を用いようとする。 | | | | | |
| 小単元 | 時 | ページ | 目　　標 | 学習内容 | おもな評価規準 |
| | 1 | 64〜65 | ○テープ図の見方・かき方を理解し，表すことができる。<br>○テープ図をもとにして，合併や求残の問題を解くことができる。 | ・加減の問題のテープ図のかき方 | (知技)問題場面をテープ図に表すことができる。《ノート》<br>(態度)問題場面を進んでテープ図に表そうとしている。《観察》 |
| | 2 | 66〜67 | ○数量の関係をテープ図を使って表すことができる。<br>○増えた数を求める逆思考の問題をテープ図にかいて考え，解くことができる。 | ・増加の逆思考の問題（a＋□＝b） | (知技)問題場面を理解し，数量の関係をテープ図に表すことができる。《ノート》<br>(思判表)数量の関係をテープ図に表し，それをもとに考えている。《発言･ノート》 |
| | 3 | 68〜69 | ○数量の関係をテープ図を使って表すことができる。<br>○減った数を求める逆思考の問題をテープ図をもとに考え，解くことができる。 | ・求残の逆思考の問題（a−□＝b） | (知技)問題場面を理解し，数量の関係をテープ図に表すことができる。《ノート》<br>(思判表)数量の関係をテープ図に表し，それをもとに考えている。《発言･ノート》 |
| | 4 | 70 | ○テープ図を問題解決に進んで用いようとする。<br>○増える前の数を求める逆思考の問題を，テープ図をもとにして考え，解くことができる。 | ・増加の逆思考の問題（□＋a＝b） | (態度)数量の関係をテープ図にかいて問題を考えようとしている。《ノート》<br>(思判表)逆思考の問題を解くのに，テープ図をもとに考えている。《発言・ノート》 |
| | 5 | 71 | ○テープ図を問題解決に進んで用いようとする。<br>○減る前の数を求める逆思考の問題を，テープ図にかいて考え，解くことができる。 | ・求残の逆思考の問題（□−a＝b） | (態度)数量の関係をテープ図にかいて問題を考えようとしている。《ノート》<br>(思判表)逆思考の問題を解くのに，テープ図をもとに考えている。《発言・ノート》 |
| | 6 | 72〜73 | ○算数の問題をつくり，その問題文にあう図や式を考えることができる。 | ・文章，図，式の相互理解 | (思判表)場面や数量の関係に着目して，問題にあう図や式を考えている。《ノート・発言》 |

## 6　100を　こえる　数

| 目　　標 | 指導時数・時期 |
|---|---|
| ○　100をこえる数について，そのよみ方やかき方を理解し，10や100を単位として数をとらえたり順序や大小，加減計算の仕方を考えたりすることを通して，十進法の理解や数の見方・考え方を深めるとともに，生活や学習に活用しようとする態度を養う。 | 11時間<br>2学期制：6月下旬～7月上旬<br>3学期制：6月中旬～7月上旬 |

**評　　価**

(知)・1000までの数の表し方や仕組みを理解し，十進位取り記数法の仕組みをもとにして，1000までの数を表したりよんだりできる。また，1000までの数の大小を比べることができる。
(思)・1000までの数について，100までの数と同じように，10や100などを単位としてそのいくつ分とみて表現したり，加減計算の仕方を考えたりすることができる。
(態)・1000までの数について，数え方を工夫しようとしたり，十進位取り記数法のよさに気づいていかそうとしたりする。

| 小単元 | 時 | ページ | 目　　標 | 学習内容 | おもな評価規準 |
|---|---|---|---|---|---|
| じゅんび | — | 124 | ○既習事項の理解を確かめる。 | ・1年「大きいかず」 | |
| (課題設定)<br>①100を こえる 数 | 1 | 74～75<br>76 | ○100 をこえる数の表し方や仕組みを調べていくという単元の課題をつかむ。<br>○10や100のまとまりに着目して，100 をこえる数の数え方やよみ方を理解する。 | ・10ずつまとめて数える操作による学習の動機づけ<br>・100をこえる数のよみ方 | (態度)100をこえる星の数を，工夫して数えようとしている。《観察》<br>(知技)100 をこえる数の構成とよみ方を理解している。《観察・発言》 |
| | 2 | 77 | ○3位数について，十進位取り記数法にもとづいて，数字で表したり数の構成を説明したりすることができる。 | ・1000未満の数の表し方（空位のない場合）《百のくらい》 | (知技)3位数を数字で表したり，3位数の構成を説明したりすることができる。《観察・発言》 |
| | 3 | 78 | ○空位のある3位数について，十進位取り記数法にもとづいて，数字で表したり数の構成を説明したりすることができる。 | ・1000未満の数の表し方（空位のある場合）《3けたの数》 | (思判表)空位のある場合の 3 位数の表し方とその構成を考えたり説明したりしている。《ノート・発言》 |
| | 4 | 79 | ○10を単位として，そのいくつ分になるかを考え，数の相対的な大きさをとらえることができる。 | ・10を単位とする数の相対的な見方 | (思判表)10 を単位にして，数の大きさを考えている。《観察・ノート》<br>(知技)10 を単位にした数の構成や分解ができる。《ノート・発言》 |
| | 5 | 80 | ○100 のまとまりをつくって数える操作を通して，1000という数を知り，1000という数の構成や数の系列をとらえることができる。 | ・1000という数の意味，構成《1000，千》 | (知技)1000 のまとまりを数えることを通して，1000という数の大きさをとらえることができる。《観察》 |
| | 6 | 81 | ○数直線の目盛りの大きさに着目し，1000までの数の系列や順序を理解することができる。 | ・数直線，1000までの数の系列 | (思判表)数直線を使って，数の系列や順序をいろいろにとらえている。《発言・ノート》 |
| | 7 | 82 | ○十進位取り記数法の仕組みをもとに考え，3位数の大小を比較することができる。 | ・数の大小比較《＜，＞》 | (思判表)3 位数の大小の比較の仕方を考えたり説明したりしている。《ノート・発言》<br>(知技)不等号を使って，数の大小関係を表すことができる。《ノート・発言》 |
| ●れんしゅう | 8 | 83 | ○学習内容を確実に身につける。 | ・練習 | |
| ②たし算と ひき算 | 9 | 84 | ○10を単位とした数の相対的な見方を働かせて，(何十)＋(何十)で答えが(百何十)のたし算やその逆のひき算ができる。 | ・10を単位とする簡単なたし算とひき算 | (思考表)10 を単位として，(何十)＋(何十)，(百何十)－(何十)の簡単な計算の仕方を考えたり説明したりしている。《ノート・発言》<br>(知技)10 を単位として，簡単なたし算やひき算の計算ができる。《ノート・発言》 |
| | 10 | 85 | ○100 を単位とした数の相対的な見方を働かせて，(何百)＋(何百)≦1000やその逆のひき算ができる。 | ・100 を単位とする簡単なたし算とひき算 | (思考表)100 を単位として，(何百)±(何百)の計算の仕方を考えたり説明したりしている。《ノート・発言》<br>(知技)100 を単位として，簡単なたし算やひき算の計算ができる。《ノート・発言》 |
| 学びの まとめ | 11 | 86～87 | ○学習内容の理解を確認する。 | ・評価とふりかえり，活用問題 | |

## 7　か　さ

| 目　　標 | 指導時数・時期 |
|---|---|
| ○　もののかさについて，その比べ方や普遍単位の必要性を理解し，測定する活動を通してますでかさをはかることや単位を適切に用いて表現することができるようにするとともに，量感を身につけて生活や学習に活用しようとする態度を養う。 | 6時間<br>2学期制：7月上旬～7月中旬<br>3学期制：7月上旬～7月中旬 |

| 評　価 |
|---|
| (知)・ますの使い方や，かさの単位「L」，「dL」，「mL」のよみ方・かき方・相互関係がわかる。<br>・かさを「L」，「dL」，「mL」の単位を用いて表したり，ますを使ってかさを測定したりすることができる。<br>(思)・かさの普遍単位の必要性がわかり，量感をもとにかさを予想したり適切な単位を判断したりすることができる。<br>(態)・かさの測定に興味を持ち，適切な大きさのますを使っていろいろなもののかさを調べたり，身のまわりの入れものの容積表示を進んでみつけたり，身近な場面でいかそうとする。 |

| 小単元 | 時 | ページ | 目　標 | 学習内容 | おもな評価規準 |
|---|---|---|---|---|---|
| じゅんび | — | 125 | ○既習事項の理解を確かめる。 | ・1年「おおきさくらべ」 | |
| (課題設定) | 1 | 88<br>89 | ○かさの比べ方を考えることを通して，単元の課題をつかむ。<br>○普遍単位の必要性に気づき，1Lますを使ってかさをはかり，1Lのいくつ分でかさを表すことができる。 | ・任意単位の測定による普遍単位の動機づけ<br>・かさの単位Lを使ったかさの表し方，1Lますを使った測定<br>《L，リットル》 | (思判表)共通の単位の必要性に気づいている。《観察・発言》<br>(態度)かさ調べに意欲的に取り組もうしている。《観察・発言》<br>(知技)1Lますを使って，いろいろな入れものに入る水のかさを測定し，L単位で表すことができる。《発言・ノート》 |
| | 2 | 90 | ○かさの単位dLについて知り，1dLのいくつ分でかさを表すことができる。<br>○LとdLの関係を理解する。 | ・dLの意味とdLまでの測定，1L＝10dL，LとdLの複名数の適用題<br>《dL，デシリットル》 | (知技)dLについて知り，1L＝10dLであることを理解している。《観察》<br>(知技)かさをLとdLを用いて表すことができる。《ノート》 |
| | 3 | 91 | ○単位mLを知り，mLとdL，mLとLの関係を理解する。 | ・mLの意味とmLまでの測定，1dL＝100mL，1L＝1000mL<br>《mL，ミリリットル》 | (知技) mLについて知り，1dL＝100mLであることを理解している。《観察》<br>(知技)かさを mL を用いて表すことができる。《ノート》 |
| | 4 | 92 | ○1L のかさをいろいろなものに水を入れてつくり，1Lの量感を身につけることができる。<br>○1Lの量感をもとにして，身のまわりのいれもののかさを見当づけたり測ったりする。 | ・1L のかさづくり（量感），身のまわりのかさの見当づけと測定 | (態度)1L のかさをいろいろなものに水を入れてつくり，量感を意欲的に身につけようとしている。《観察》<br>(思判表)1L の量感をもとに，身のまわりのいれものがどのくらいのかさかを判断している。《観察・ノート》 |
| | 5 | 93 | ○簡単なかさのたし算やひき算の計算ができる。 | ・かさの加減計算，単位換算 | (思判表)単位に着目して，かさの計算の仕方を考えたり説明したりしている。《発言・ノート》<br>(知技)簡単なかさの計算ができる。《ノート》 |
| 学びの まとめ | 6 | 94～95 | ○学習内容の理解を確認する。 | ・評価とふりかえり，活用問題 | |

## 活　わくわく算数ひろば

| 小単元 | 時 | ページ | 目　標 | 学習内容 | おもな評価規準 |
|---|---|---|---|---|---|
| ●どんな 計算に なるのかな(1) | 1 | 96～97 | ○根拠にもとづいて，たし算やひき算の演算決定をすることができる。 | ・加減の演算決定 | (思判表)演算決定の根拠を考えたり説明したりしている。《発言・ノート》 |
| ●算数の じゆうけんきゅう | 2 | 98～99 | ○「線路づくり」といった自由研究に取り組み，見通しをもって考える力や粘り強く取り組む態度を伸ばす。 | ・線路カードを使った線路づくり（閉路や1周することの意味） | (態度)線路づくりに意欲的に取り組み，いろいろな線路をつくろうとしている。《観察・作品》<br>(思判表)見通しをもちながら，線路の構成を考えている。《観察》 |

## ＊　ふくしゅう

| 小単元 | 時 | ページ | 目標 | 学習内容 | おもな評価規準 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 1 | 100～101 | ○既習事項の確認と持続 | ・復習 | |

## 8　たし算と　ひき算の　ひっ算(2)

| 目　標 | 指導時数・時期 |
|---|---|
| ○　3位数の加減計算について，(3位数)±(2位数)の筆算を考えたり説明したりすることを通して，計算や十進位取り記数法の理解を深め，繰り上がりや繰り下がりのある筆算ができるようにするとともに，生活や学習に活用しようとする態度を養う。 | 10時間<br>2学期制：9月上旬～9月下旬<br>3学期制：9月上旬～9月下旬 |
| 評　価 | |
| (知)・繰り上がりや繰り下がりに気をつけて，正しく筆算で計算することができる。また，繰り上がりや繰り下がりの操作を通して，十進位取り記数法についての理解を深められる。<br>(思)・既習の2位数の筆算をもとにして，百の位に繰り上がるたし算とその逆のひき算や，簡単な場合の(3位数)±(2位数)の筆算の仕方を考えることができる。<br>(態)・既習の2位数の筆算をもとに，進んで考えようとする。また，筆算の仕方やそのよさがわかり，進んで活用しようとする。 | |

| 小単元 | 時 | ページ | 目　　標 | 学習内容 | おもな評価規準 |
|---|---|---|---|---|---|
| じゅんび | — | 125 | ○既習事項の理解を確かめる。 | ・2 年「たし算とひき算のひっ算(1)」 | |
| (課題設定)<br>①たし算 | 1 | 102<br>103 | ○答えが 3 桁になるたし算の筆算の仕方を考えていくという単元の課題をつかむ。<br>○(2 位数)＋(2 位数)で十の位に繰り上がりのある筆算ができる。 | ・答えが 100 をこえる筆算の動機づけ<br>・(2 位数)＋(2 位数)で十の位が繰り上がる筆算 | (態度)単元の課題をつかみ, 十の位に繰り上がりがある筆算の仕方を意欲的に身につけようとしている。《発言・観察》<br>(知技)(2 位数)＋(2 位数)で十の位に繰り上がりのある筆算ができる。《ノート・観察》 |
| | 2 | 104 | ○(2 位数)＋(2 位数)で一の位と十の位に繰り上がりのある筆算ができる。 | ・(2 位数)＋(2 位数)で十と一の位が繰り上がる筆算 | (思判表)既習の筆算の仕方をもとに考えて，繰り上がりが 2 回あるたし算の筆算の仕方を見いだしている。《発言・観察》<br>(知技)2 回十繰り上がるたし算の筆算ができる。《ノート・観察》 |
| | 3 | 105 | ○3 口のたし算を筆算形式に表し, 計算することができる。 | ・3 口のたし算 | (思判表)既習の筆算の仕方をもとに, 3 口の筆算の仕方を考えたり説明したりしている。《発言・観察》<br>(知技)3 口のたし算の筆算ができる。《ノート・観察》 |
| ●れんしゅう | 4 | 106 | ○学習内容を確実に身につける。 | ・練習 | |
| ②ひき算 | 5 | 107 | ○(百何十何)－(2 位数)で百の位が繰り下がる筆算ができる。 | ・(百何十何)－(2 位数)で百の位が繰り下がる筆算 | (知技)(百何十何, 百何)－(2 位数)で百の位が繰り下がる筆算ができる。《ノート・観察》 |
| | 6 | 108 | ○(百何十何)－(2 位数)で繰り下がりが 2 回の筆算ができる。 | ・(百何十何)－(2 位数)で十と百の位が繰り下がる筆算 | (思判表)既習の筆算の仕方をもとに考えて，繰り下がりが 2 回あるひき算の筆算の仕方を見いだしている。《発言・観察》<br>(知技)(百何十何)－(2 位数)で 2 回繰り下がるひき算の筆算ができる。《ノート・観察》 |
| | 7 | 109 | ○(百何)－(2 位数)で繰り下がりが 2 桁におよぶ筆算ができる。 | ・(百何)－(2 位数)で一の位の計算で百の位から繰り下げる筆算 | (思判表)記数法の仕組みをもとに, 一の位の計算で百の位から繰り下げる仕方を考えたり説明したりしている。《発言・観察》<br>(知技)(百何)－(2 位数)で繰り下がりが 2 桁におよぶひき算の筆算ができる。《ノート・観察》 |
| ●れんしゅう | 8 | 110 | ○学習内容を確実に身につける。 | ・練習 | |
| ③3 けたの 数の ひっ算 | 9 | 111 | ○(3 位数)＋(2 位数)で，百の位に繰り上がらない筆算ができる。<br>○(3 位数)－(2 位数)で，百の位から繰り下がらない筆算ができる。 | ・(3 位数)±(2 位数)の簡単な筆算 | (思判表)2 位数同士の筆算の仕方をもとに，(3 位数)±(2 位数)の筆算の仕方を考えている。《発言・観察》<br>(知技)(3 位数)±(1，2 位数)の筆算ができる。《発言・観察》 |
| 学びの まとめ | 10 | 112～113 | ○学習内容の理解を確認する。 | ・評価とふりかえり，活用問題 | |

## 思　図を　つかって　考えよう(2)

| 目　　標 | 指導時数・時期 |
|---|---|
| ○　文章題において，問題場面を図に表して数量の増減に着目して解法を考えることを通して，まとめて考える考え方を使って解くことができるようにするとともに，用いた図や見方・考え方を生活や学習に活用しようとする態度を養う。 | 3 時間<br>2 学期制：9 月下旬<br>3 学期制：9 月下旬 |
| 評　　価 | |
| (知)・増減する数量に着目し，「まとめて考える」という考え方を理解することができる。<br>(思)・増減する数量に着目し，数図ブロックを操作したり，図に表したりして，まとめて考えることができる。<br>(態)・増減する数量に着目し，「まとめて考える」という考え方のよさに気づき，これを活用しようとする。 | |

| 小単元 | 時 | ページ | 目　　標 | 学習内容 | おもな評価規準 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 1 | 114～115 | ○増増の場面の問題を，順に考えて解く方法と，増える数に着目してまとめて考えて解く方法の 2 通りの考え方があることがわかる。 | ・増増の場合について，順に考えたりまとめて考えたりする問題 | (思判表)順に考えたり，まとめて考えたりしている。《発言・ノート》<br>(知技)2 通りの考え方を理解している。《観察・ノート》 |
| | 2 | 116 | ○減減の場面や増増の問題をオペレータに着目して，まとめて考える考え方で解くことができる。 | ・増増，減減の場合について，まとめて考える問題 | (態度)まとめて考えるよさに気づき，それを用いようとしている。《観察・発言》<br>(思判表)オペレータに着目し, それをまとめて考えている。《発言・ノート》 |
| | 3 | 117 | ○増減の場面の問題を，オペレータに着目して差し引きいくら増えたことになるかを考えて解くことができる。 | ・増減の場合について，まとめて考える問題 | (思判表)オペレータに着目し, 差し引きいくら増えたことになるかを考えている。《発言・ノート》 |

## 9　しきと　計算

| 目　　標 | 指導時数・時期 |
|---|---|
| ○　式について，(　) の意味を理解し，(　) を使って 1 つの式に表したり等号や不等号で大小関係を式に表したりすることができるようにするとともに，生活や学習に活用しようとする態度を養う。 | 2 時間<br>2 学期制：10 月上旬<br>3 学期制：10 月上旬 |
| 評　　価 | |
| (知)・加法の結合法則の計算のきまりや (　) を使った式の計算順序を理解し，(　) を使った式の計算ができる。また，等号や不等号の使い方を理解することができる。<br>(思)・(　) を用いて 1 つの式に表したり，等号や不等号を用いて大小関係を式に表したりすることができる。<br>(態)・(　) や不等号などを用いると，考え方や数量の関係を簡潔に式に表せることに気づき，(　) や不等号などを用いて式に表そうとする。 | |

| 小単元 | 時 | ページ | 目　　標 | 学習内容 | おもな評価規準 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 1 | 118～119 | ○増増の場面をもとに，加法の結合法則が成り立つことに気づき，(　) を使った式の計算順序がわかる。 | ・加法の結合法則，(　) の使い方 《(　)》 | (態度)式の表し方に関心をもち，意欲的にそれを身につけようとしている。《観察》<br>(思判表)(　)を使って式に表すよさに気づいている。《観察・発言》 |
| | 2 | 120 | ○数量の相等関係や大小関係を，等号や不等号を使って式に表すことができる。 | ・等号・不等号を使った式，等号の意味理解 | (知技)数量の相等や大小関係を，等号や不等号を使って式に表すことができる。《発言・ノート》 |

## ★　学びの　サポート

| ページ | 学習内容 | 指導時数 |
|---|---|---|
| 122～125 | ・じゅんび | |
| 126～135 | ・もっと　れんしゅう | |
| 136～148 | ・算数しりょうしゅう | |

※巻末にある「学びのサポート」は少人数学習や自学自習など柔軟な扱いができるように時間配当をしていません。
すべての児童が一律に学習する必要はありません。

**2 年下巻**

## 10　かけ算(1)

| 目　　標 | 指導時数・時期 |
|---|---|
| ○　かけ算九九について，その意味や式について理解し，ブロックを操作する活動を通してかけ算になる場面をとらえて式にかいたり，かける数が 1 増えたときの積の増え方に着目して 2～5 の段の九九を構成したりすることができるようにするとともに，生活や学習に活用しようとする態度を養う。 | 16 時間<br>2 学期制：10 月中旬～11 月上旬<br>3 学期制：10 月上旬～10 月下旬 |
| 評　　価 | |
| (知)・かけ算の意味を知り，1 つ分の大きさのいくつ分を求めるときにかけ算を用いればよいことが理解できる。また，かけ算の式に表したり，九九を唱えたりして，問題を解くことができる。<br>(思)・ブロック操作をもとに，かける数が 1 増えると積はかけられる数だけ増えることを使って，九九を構成することができる。<br>(態)・累加の簡潔な表現としてのかけ算のよさに気づき，身のまわりからかけ算で表される数量の場面をみつけようとする。 | |

| 小単元 | 時 | ページ | 目　　標 | 学習内容 | おもな評価規準 |
|---|---|---|---|---|---|
| じゅんび | — | 122 | ○既習事項の理解を確かめる。 | ・1 年「おなじかずずつ」 | |
| (課題設定) | 1 | 2 | ○具体的な操作を通して，基準量の「いくつ分」という見方について理解する。<br>○何個のいくつ分の表し方や計算の仕方について考えていくという単元の課題をつかむ。 | ・乗り物に乗っている人数を調べることによる，かけ算の学習の動機づけ<br>・何個のいくつ分で表すこと | (態度)1 台の人数に着目して，乗り物に乗っている人数を進んで調べようとしている。《観察・発言》<br>(知技)基準量のいくつ分という見方を理解している。《観察・発言》 |
| ①いくつ分と かけ算 | | 3～5 | | | |
| | 2 | 6～7 | ○基準量のいくつ分という見方を働かせて，かけ算の意味を理解し，式に表すことができる。 | ・かけ算の意味と式，累加による答えの求め方 《×，かけ算》 | (思判表) 基準量のいくつ分という見方を働かせて，数図ブロックを並べたりかけ算の式に表したりしている。《観察・ノート》<br>(知技)かけ算の意味を理解し，式に表すことができる。《発言・ノート》 |
| | 3 | 8～9 | ○かけ算の用いられる場面を式に表し，その答えを累加で求めることができる。<br>○身のまわりから，かけ算の式に表せる場面をみつける。 | ・かけ算が適用できる場面の理解<br>・身のまわりのかけ算さがし | (知技)かけ算の式をかいて，その答えを累加で求めることができる。《発言・ノート》<br>(態度) 基準量のいくつ分という見方を働かせて，身のまわりからかけ算の場面をみつけようとしている。《観察・発言》 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| ②何ばいと かけ算 | 4 | 10～11 | ○基準量のいくつ分という見方をもとに何倍の意味を理解し，かけ算の用いられる場面について理解を深める。 | ・倍の意味とその見方，2倍や3倍，1倍<br>《ばい》 | (知技)倍の意味を知り，倍の場面についてもかけ算の式で表されることを理解している。《観察・ノート》<br>(思判表) 基準量の何倍かを考えたり，それをかけ算の式に表したりしている。《観察・発言》 |
| ③かけ算の 九九 | 5 | 12～13 | ○乗数が1ずつ増えると答えが5ずつ増えることを使って，5の段の九九を構成することができる。 | ・5の段の九九の構成<br>《かけられる数，かける数，九九》 | (思判表)乗数が 1 ずつ増えると答えが5ずつ増えることを使って，5の段の九九を構成している。《発言・ノート》<br>(態度)かけ算の九九に関心をもって意欲的に取り組もうとしている。《観察》 |
| | 6<br>・<br>7 | 14 | ○5の段の九九の唱え方を知り，九九のカードをつくるなどして九九を練習する。〈第6時〉<br>○5の段の九九を用いて，適用題を解く。〈第7時〉 | ・5の段の唱え方，練習と適用題 | (態度)5の段の九九の唱え方を知り，意欲的に身につけようとしている。《発言・観察》<br>(知技)5の段の九九を用いて，適用題を解くことができる。《ノート》 |
| | 8<br>・<br>9 | 15～16 | ○2の段の九九を構成し，その唱え方を知り，練習する。〈第8時〉<br>○2の段の九九を用いて，適用題を解く。〈第9時〉 | ・2の段の九九の構成と唱え方，練習と適用題 | (思判表)乗数が 1 ずつ増えると答えが2ずつ増えることを使って，2の段の九九を構成している。《発言・ノート》<br>(態度)2の段の九九の唱え方を知り，意欲的に身につけようとしている。《発言・観察》<br>(知技)2の段の九九を用いて，適用題を解くことができる。《ノート》 |
| | 10<br>・<br>11 | 17～18 | ○3の段の九九を構成し，その唱え方を知り，練習する。〈第10時〉<br>○3の段の九九を用いて，適用題を解く。〈第11時〉 | ・3の段の九九の構成と唱え方，練習と適用題 | (思判表)乗数が 1 ずつ増えると答えが3ずつ増えることを使って，3の段の九九を構成している。《発言・ノート》<br>(態度)3の段の九九の唱え方を知り，意欲的に身につけようとしている。《発言・観察》<br>(知技)3の段の九九を用いて，適用題を解くことができる。《ノート》 |
| | 12<br>・<br>13 | 19～20 | ○4の段の九九を構成し，その唱え方を知り，練習する。〈第12時〉<br>○4の段の九九を用いて，適用題を解く。〈第13時〉 | ・4の段の九九の構成と唱え方，練習と適用題 | (思判表)乗数が 1 ずつ増えると答えが4ずつ増えることを使って，2の段の九九を構成している。《発言・ノート》<br>(態度)4の段の九九の唱え方を知り，意欲的に身につけようとしている。《発言・観察》<br>(知技)4の段の九九を用いて，適用題を解くことができる。《ノート》 |
| | 14 | 21 | ○基準量が後に示された問題を，かけ算の式に表して九九を使って解決する。 | ・基準量が後に示されたかけ算の問題 | (思判表)かけ算の意味をもとに，基準量が後に示された場合の式について考えたり説明したりしている。《発言・ノート》 |
| ●れんしゅう | 15 | 22 | ○学習内容を確実に身につける。 | ・練習 | |
| 学びの まとめ | 16 | 23 | ○学習内容の理解を確認する。 | ・評価とふりかえり | |

| ＊ ふくしゅう | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 小単元 | 時 | ページ | 目標 | 学習内容 | おもな評価規準 |
| | 1 | 24～25 | ○既習事項の確認と持続 | ・復習 | |

# 11　かけ算(2)

| 目　　標 | 指導時数・時期 |
|---|---|
| ○　かけ算九九について，アレイ図を使った活動を通して 6〜9 の段や 1 の段の九九を構成したり，かけ算を使って問題を解決したりすることができるようにするとともに，生活や学習に活用しようとする態度を養う。 | 13 時間<br>2 学期制：11 月中旬〜11 月下旬<br>3 学期制：11 月上旬〜11 月下旬 |
| 評　　価 | |
| (知)・アレイ図を使った九九の構成の仕方やかけ算が用いられる場面について理解する。また，かけ算の式に表したり，九九を唱えたりして，問題を解くことができる。<br>(思)・アレイ図をもとに，かける数が 1 増えると積はかけられる数だけ増えることを使って，九九を構成することができる。<br>(態)・かけ算や九九のよさがわかり，進んで用いようとする。 | |

| 小単元 | 時 | ページ | 目　　標 | 学習内容 | おもな評価規準 |
|---|---|---|---|---|---|
| じゅんび | — | 122 | ○既習事項の理解を確かめる。 | ・2 年「かけ算(1)」 | |
| (課題設定)<br>九九づくり | 1・2 | 26<br>27〜28 | ○アレイ図を使ってかけ算を構成していくという単元の課題をつかむ。〈第 1 時〉<br>○6 の段の九九を構成し,その唱え方を知り，練習する。〈第 1 時〉<br>○6 の段の九九を用いて,適用題を解く。〈第 2 時〉 | ・かけ算の式をアレイ図に表すことによる学習の動機づけ<br>・6 の段の九九の構成と唱え方，練習と適用題 | (思判表)アレイ図から乗数が 1 ずつ増えると答えが 6 ずつ増えることに気づき,6 の段の九九を構成している。《発言・ノート》<br>(態度)6 の段の九九の唱え方を知り，意欲的に身につけようとしている。《発言・観察》<br>(知技)6 の段の九九を用いて，適用題を解くことができる。《ノート》 |
| | 3・4 | 29〜30 | ○7 の段の九九を構成し,その唱え方を知り，練習する。〈第 3 時〉<br>○7 の段の九九を用いて,適用題を解く。〈第 4 時〉 | ・7 の段の九九の構成と唱え方，練習と適用題 | (思判表)アレイ図から乗数が 1 ずつ増えると答えが 7 ずつ増えることに気づき,7 の段の九九を構成している。《発言・ノート》<br>(態度)7 の段の九九の唱え方を知り，意欲的に身につけようとしている。《発言・観察》<br>(知技)7 の段の九九を用いて，適用題を解くことができる。《ノート》 |
| | 5・6・7 | 31〜33 | ○これまでの学習をもとに 8 の段，9 の段の九九を構成し，その唱え方を知り，練習する。〈第 5 時〉<br>○8 の段の九九を用いて,適用題を解く。〈第 6 時〉<br>○9 の段の九九を用いて,適用題を解く。〈第 7 時〉 | ・8 の段，9 の段の九九の構成と唱え方，練習と適用題 | (思判表)乗数が 1 ずつ増えると答えが被乗数だけ増えることに気づき，8 の段と 9 の段の九九を構成している。《発言・ノート》<br>(態度)8 の段と 9 の段の九九の唱え方を知り，意欲的に身につけようとしている。《発言・観察》<br>(知技)8 の段と 9 の段の九九を用いて，適用題を解くことができる。《ノート》 |
| | 8 | 34 | ○基準量が 1 のときのかけ算の意味を理解し，1 の段の九九を構成する。 | ・乗数が 1 のかけ算<br>・1 の段の九九の構成と唱え方，練習と適用題 | (知技)乗数が 1 のかけ算の意味を理解している。《発言・観察》<br>(態度)1 の段の九九を構成して，意欲的に身につけようとしている。《発言・観察》 |
| | 9 | 35 | ○問題づくりを通して，かけ算の理解を深める。 | ・かけ算の問題づくり | (思判表)かけ算で表される場面を正しく判断し，かけ算の問題を考えたり，かけ算になるわけを説明したりしている。《発言・観察》 |
| ●れんしゅう | 10 | 36 | ○学習内容を確実に身につける。 | ・練習 | |
| ②かけ算を つかったもんだい | 11 | 37 | ○乗法と加法，乗法と減法が組み合わされた 3 要素 2 段階の問題を解く。 | ・乗法と加法，減法の組み合わさった問題 | (思判表)順序よく考えて，乗法と加法や減法を組み合わせて問題を解決している。《発言・ノート》 |
| ③図や しきを つかって | 12 | 38〜39 | ○同じ数のまとまりに着目して，L 字型に並んだものの数をかけ算を使って求めることができる。 | ・L 字型に並んだ●の数を求める問題 | (思判表)同じ数のまとまりに着目して，かけ算を使って考えたり説明したりしている。《観察・ノート》<br>(態度)いろいろ考えようとしたり，考え方の違いや似ているところを見つけようとしたりしている。《ノート・発言》 |
| 学びの まとめ | 13 | 40〜41 | ○学習内容の理解を確認する。 | ・評価とふりかえり，活用問題 | |

# 12　三角形と　四角形

| 目　　標 | 指導時数・時期 |
|---|---|
| ○　三角形や四角形について，観察を通してその分類や意味を理解し，構成要素を調べたり図形を構成したりすることを通して平面図形の性質やその見方・考え方をとらえさせるとともに，生活や学習に活用しようとする態度を養う。 | 10 時間<br>2 学期制：12 月上旬～12 月中旬<br>3 学期制：11 月下旬～12 月中旬 |

**評　　価**

(知)・三角形，四角形，及び，長方形，正方形，直角三角形の意味を理解し，これらを弁別することができる。また，点を直線でつないだり，紙をおったり，方眼紙を使ったりして，三角形，四角形，長方形，正方形，直角三角形を作図することができる。

(思)・三角形，四角形の弁別について，直線の数に着目して考えることができる。また，辺の長さや直角に着目して，長方形，正方形，直角三角形の意味や性質を考えることができる。

(態)・いろいろな三角形や四角形をつくったり，身のまわりから見つけたりしようとする。また，興味をもって，長方形，正方形，直角三角形を敷き詰める活動に取り組み，平面の広がりに気づく。

| 小単元 | 時 | ページ | 目　　標 | 学習内容 | おもな評価規準 |
|---|---|---|---|---|---|
| じゅんび | — | 123 | ○既習事項の理解を確かめる。 | ・1 年「いろいろなかたち」 | |
| (課題設定) | 1 | 42～44 | ○動物を直線で囲む操作を通して，三角形と四角形の意味を知る。<br>○三角形と四角形について調べていくという単元の課題をつかむ。 | ・点をつなぐ形づくりによる学習の動機づけ<br>・三角形と四角形の定義，点構成，線構成<br>《三角形，四角形》 | (思判表)図形の構成要素に着目して，仲間分けしている。《発言・観察》<br>(知技)三角形と四角形について理解し，点を直線でつないでつくることができる。《観察》<br>(態度)三角形と四角形に関心をもち，意欲的にさらに調べようとしている。《発言・ノート》 |
| ①三角形と 四角形 | 2 | 45 | ○三角形と四角形の弁別を行い，それらの構成要素について調べる。 | ・三角形と四角形の弁別，構成要素<br>《辺，ちょう点》 | (思判表)三角形や四角形といえるわけを考えたり説明したりしている。《発言・ノート》<br>(知技)三角形と四角形の頂点や辺について理解している。《ノート》 |
| | 3 | 46～47 | ○三角形や四角形の紙を 2 つに切って三角形や四角形をつくり，三角形や四角形についての理解を深める。<br>○身のまわりから，三角形や四角形の形をしたものをみつける。 | ・三角形と四角形の面構成（紙を切る）<br>・身のまわりの三角形や四角形 | (思判表)図形の構成要素や切り方に着目して，どのような形ができるかを考えたり説明したりしている。《発言・観察》 |
| ②長方形と 正方形 | 4 | 48 | ○かどの形づくりを通して，直角の意味を知り，身のまわりから直角を見つける。 | ・直角づくりとその定義，直角さがし<br>《直角》 | (知技)かどの形をつくることができ，直角の意味を理解している。《観察》 |
| | 5 | 49 | ○紙を折ることによる長方形の形づくりを通して，長方形について理解する。 | ・長方形づくり，長方形の定義や性質<br>《長方形》 | (知技)長方形について理解している。《観察》<br>(思判表)図形の構成要素に着目して，長方形の性質を調べている。《発言・観察》 |
| | 6 | 50～51 | ○長方形の紙を切ることによる正方形の形づくりを通して，正方形について理解する。 | ・正方形づくり，正方形の定義や性質<br>《正方形》 | (思判表)図形の構成要素に着目して，正方形の性質を調べている。《発言・観察》<br>(知技)正方形について理解し，長方形と正方形の弁別ができる。《発言・ノート》 |
| | 7 | 52 | ○長方形や正方形の紙を斜めに切ることによる直角三角形の形づくりを通して，直角三角形について理解する。 | ・直角三角形づくり，直角三角形の定義と弁別<br>《直角三角形》 | (態度) 図形の構成要素に着目して，できた三角形の特徴を調べようとしている。《観察・発言》<br>(知技)直角三角形について理解し，弁別することができる。《発言・ノート》 |
| | 8 | 53 | ○方眼紙を使って，長方形，正方形，直角三角形を作図することができる。 | ・方眼紙を使った長方形，正方形，直角三角形の作図 | (知技)定義にもとづいて，長方形，正方形，直角三角形を作図することができる。《観察・ノート》<br>(態度)正しく作図できたかを確かめようとしている。《観察・発言》 |
| | 9 | 54～55 | ○色紙を並べて長方形，正方形，直角三角形をつくり，その図形になるわけを説明することができる。<br>○長方形，正方形，直角三角形を敷き詰めて，模様をつくり，いろいろな図形をみつけることができる。 | ・形づくりと平面の敷き詰め | (態度)いろいろな形や模様がつくれることに気づき，意欲的に取り組もうとしている。《発言・ノート》<br>(知技) 定義にもとづいて，長方形，正方形，直角三角形といえる理由を説明することができる。《発言・ノート》<br>(思判表)いろいろな模様をつくり，平面の広がりに気づく。《観察》 |
| 学びの まとめ | 10 | 56～57 | ○学習内容の理解を確認する。 | ・評価とふりかえり，活用問題 | |

## 思　図を　つかって　考えよう(3)

| 目　　標 | 指導時数・時期 |
|---|---|
| ○　文章題において，問題場面を図に表して数量の違いに着目して解法を考えることを通して，違いをみて考える考え方を使って解くことができるようにするとともに，用いた図や見方・考え方を生活や学習に活用しようとする態度を養う。 | 2 時間<br>2 学期制：12 月中旬<br>3 学期制：12 月中旬 |
| 評　　価 | |
| (知)・2 つの数量の違いを比べやすいように，左側をそろえて 2 本のテープ図に表すことができる。<br>(思)・2 つの数量の違いに着目して，一方の数量が多いということは他方の数量が少ないことであるというように考え，問題を解決することができる。<br>(態)・2 つの数量の違いを図に表して考えるよさに気づき，進んで図を使って問題を解こうとする。 | |

| 小単元 | 時 | ページ | 目　　標 | 学習内容 | おもな評価規準 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 1 | 58～59 | ○2 本のテープ図を使って 2 つの数量の違いに着目し，一方が多いということは他方が差の分だけ少ないと考えて，問題を解くことができる。 | ・求大の逆思考の問題 | (思判表)2 本のテープ図を見て，2 つの数量の違いと多少の関係を正しくとらえている。《発言・ノート》 |
| | 2 | 60～61 | ○2 本のテープ図を使って 2 つの数量の違いに着目し，一方が少ないということは，他方が差の分だけ多いと考えて，問題を解くことができる。 | ・求小の逆思考の問題 | (知技)2 つの数量の関係を 2 本のテープ図に表すことができる。《ノート》<br>(思判表) 2 本のテープ図を見て，2 つの数量の違いを多少の関係を正しくとらえている。《発言・ノート》 |

## 活　わくわく算数ひろば

| 小単元 | 時 | ページ | 目　　標 | 学習内容 | おもな評価規準 |
|---|---|---|---|---|---|
| ●どんな 計算に なるのかな(2) | 1 | 62～63 | ○根拠にもとづいて，かけ算の演算決定をすることができる。 | ・乗法の演算決定 | (思判表)演算決定の根拠を考えたり説明したりしている。《発言・ノート》 |
| ●買えますか？買えませんか？ | 2 | 64～65 | ○1 つ 100 円で買えるか買えないかの判断をもとに，いくつかの品物が何百円で買えるか買えないかを判断することができる。 | ・見積もりの素地 | (思判表)98 円のもの 5 つを 500 円で買えるかどうかを判断し，その根拠を考えたり説明したりしている。《発言・ノート》<br>(思判表)105 円のもの 3 つを 300 円で買えるかどうかを判断し，その根拠を考えたり説明したりしている。《発言・ノート》 |

## ＊　ふくしゅう

| 小単元 | 時 | ページ | 目標 | 学習内容 | おもな評価規準 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 1 | 66～68 | ○既習事項の確認と持続 | ・復習 | |

## 13　九九の　きまり

| 目　　標 | 指導時数・時期 |
|---|---|
| ○　かけ算九九について，九九の表の考察や九九の範囲をこえる乗法の計算の仕方を考えることを通して，乗法に関して成り立つ性質や九九の表のきまりを見いだしてかけ算の理解を深めるとともに，生活や学習に活用しようとする態度を養う。 | 8 時間<br>2 学期制：1 月中旬～1 月下旬<br>3 学期制：1 月中旬～1 月下旬 |
| 評　　価 | |
| (知)・九九の表を使って，同じ答えのかけ算をみつけたり，乗法に関して成り立つ性質を理解したりすることができる。<br>(思)・九九の表の考察を通して，いろいろなきまりを見つけることができる。また，簡単な 2 位数と 1 位数との乗法の計算の仕方を考えることができる。<br>(態)・九九の表やかけ算のきまりに関心をもち，進んできまりを見つけたり，活用したりしようとする。 | |

| 小単元 | 時 | ページ | 目　　標 | 学習内容 | おもな評価規準 |
|---|---|---|---|---|---|
| じゅんび | — | 123 | ○既習事項の理解を確かめる。 | ・2 年「かけ算(1)」「かけ算(2)」 | |
| (課題設定) | 1 | 71 | ○九九の表を完成させ，九九のきまりについて調べるという単元の課題をつかむ。<br>○九九の表の見方がわかる。 | ・九九の表づくりによる学習の動機づけ | (知技)九九の表をつくることができる。《観察》<br>(態度)九九の表からいろいろなことを進んで見つけようとしている。《ノート・発言》 |
| ①九九の ひょうと きまり | 2 | 72 | ○九九の表を使って，乗数と積の関係について調べる。 | ・乗数が 1 増えたときの積の増え方 | (思判表)乗数が 1 増えると積は被乗数だけ増えることが，かけ算のきまりであることに気づいている。《発言・ノート》 |
| | 3 | 73 | ○九九の表を使って，乗法の交換法則について調べる。 | ・乗法の交換法則 | (思判表)かけ算では交換法則が成り立つことに気づいている。《発言・ノート》 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | 4 | 74 | ○九九の表を使って，同じ答えがいくつあるかを調べる。 | ・同じ答えになるかけ算さがし | (知技)九九の表から答えが同じかけ算を見つけることができる。《発言・ノート》 |
| | 5 | 75 | ○九九の表を使って，2 つの段の答えの和や差について調べる。 | ・九九の 2 つの段の答えの和や差（分配法則の素地） | (思判表)被乗数に着目して，2 つの段の答えの和や差をとると，別の段の答えになることに気づいている。《発言・ノート》<br>(知技) 2 つの段の答えの和や差をとって，別の段をつくることができる。《ノート・発言》 |
| ②九九を 広げて | 6 | 76 | ○簡単な(1 位数)×(2 位数)について，乗数と積の関係を使って答えを求めることができる。 | ・簡単な(1 位数)×(2 位数)の答えのみつけ方 | (思判表)九九の構成の仕方をもとに，4×12 の答えを乗数と積の関係を使って考えたり説明したりしている。《観察・発言》 |
| | 7 | 77 | ○簡単な(2 位数)×(1 位数)について，同数累加の考えや交換法則などを使って答えを求めることができる。 | ・簡単な(2 位数)×(1 位数)の答えのみつけ方 | (思判表)12×4 の答えを，同数累加や交換法則などを使って考えたり説明したりしている。《観察・発言》 |
| 学びの まとめ | 8 | 78～79 | ○学習内容の理解を確認する。 | ・評価とふりかえり，活用問題 | |

## 14　100cm を　こえる　長さ

| 目　　標 | 指導時数・時期 |
|---|---|
| ○　100cm をこえる長さについて，新たな普遍単位の必要性を理解し，測定する活動を通して 1m 以上の長さのものをはかることや単位を適切に用いて表現することができるようにするとともに，量感を身につけて生活や学習に活用しようとする態度を養う。 | 6 時間<br>2 学期制：1 月下旬～2 月上旬<br>3 学期制：1 月下旬～2 月上旬 |
| 評　　価 | |
| (知)・長さの単位「m」を知り，「m」と「cm」の単位の関係を理解することができる。また，1m のものさしを使って，手際よく長さを測ることができる。<br>(思)・大きな長さの単位の必要性に気づき，1m をこえる長さを表すのに適切な単位を判断することができる。<br>(態)・身のまわりの 1m をこえるものの長さを，見当をつけてから測ろうとする。 | |

| 小単元 | 時 | ページ | 目　　標 | 学習内容 | おもな評価規準 |
|---|---|---|---|---|---|
| じゅんび | — | 124 | ○既習事項の理解を確かめる。 | ・2 年「長さ」 | |
| (課題設定) | 1 | 80～81 | ○両手を広げた長さを測り，100 cm をこえる長さの別の表し方を調べるという単元の課題をつかむ。 | ・両手を広げた長さを調べることによる学習の動機づけ | (態度)100cm をこえる長さに関心をもち，測り方や表し方について意欲的に調べていこうとしている。《観察･発言》 |
| | 2 | 82 | ○長さの単位 m について知り，m 単位を使って長さを表すことができる。 | ・m の意味と 1m をこえる測定，1m＝100cm<br>《m，メートル》 | (知技)1m ものさしのしくみや 1m＝100cm であることを理解している。《観察》 |
| | 3 | 83 | ○1m の長さをテープなどでつくったり身のまわりから見つけたりして，1m の量感を身につけることができる。 | ・1m の長さづくり(量感)，1m の長ささがし | (態度)1m の長さづくりや長ささがしを通して，量感を意欲的に身につけようとしている。《観察》 |
| | 4 | 84 | ○1m の量感をもとにして，身のまわりの 1m をこえるものの長さを見当づけたり測ったりする。 | ・身のまわりのものの長さの見当づけと測定 | (思判表)1m の量感をもとに，身のまわりのものがどのくらいの長さかを判断している。《観察・ノート》<br>(知技)適切に単位を選択することができる。《ノート》 |
| | 5 | 85 | ○簡単な場合の 1m をこえる長さのたし算やひき算の計算ができる。 | ・長さの加減計算 | (思判表)単位に着目して，長さの計算の仕方を考えたり説明したりしている。《発言・ノート》<br>(知技)簡単な場合の 1m をこえる長さの計算ができる。《ノート》 |
| 学びの まとめ | 6 | 86～87 | ○学習内容の理解を確認する。 | ・評価とふりかえり，活用問題 | |

## ＊　ふくしゅう

| 小単元 | 時 | ページ | 目標 | 学習内容 | おもな評価規準 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 1 | 88～89 | ○既習事項の確認と持続 | ・復習 | |

## 15　1000 を　こえる　数

| 目　　標 | 指導時数・時期 |
|---|---|
| ○　1000 をこえる数について，そのよみ方やかき方を理解し，100 や 1000 を単位として数をとらえたり順序や大小について考えたりすることを通して，十進法の理解や数の見方・考え方を深めるとともに，生活や学習に活用しようとする態度を養う。 | 7 時間<br>2 学期制：2 月上旬～2 月中旬<br>3 学期制：2 月上旬～2 月中旬 |
| 評　　価 | |

(知)・10000 までの数をよんだり表したりすることができる。また，10000 までの数のしくみを，十進位取り記数法にもとづいて理解し，10000 までの数の大小を比較することができる。
(思)・既習の 1000 までの十進位取り記数法のしくみをもとに，10000 までの数の表し方やしくみを考えることができる。また，100 を単位にして，10000 までの数の大きさをとらえることができる。
(態)・十進位取り記数法のよさに気づき，進んで 10000 までの数をよんだり表したりしようとする。

| 小単元 | 時 | ページ | 目　標 | 学習内容 | おもな評価規準 |
|---|---|---|---|---|---|
| じゅんび | — | 124 | ○既習事項の理解を確かめる。 | ・2 年「100 をこえる数」 | |
| (課題設定) | 1 | 90<br>91 | ○1000 をこえる数の表し方や仕組みを調べていくという単元の課題をつかむ。<br>○100 のまとまりを 10 個集めて 1000 のまとまりをつくると数えやすいことに気づくとともに，1000 をこえる数のよみ方を理解する。 | ・1000 をこえる数の学習の動機づけ<br>・1000 をこえる数の数え方 | (態度)数のまとまりに着目し，1000 をこえる数について考えようとしている。《観察》<br>(知技)1000 をこえる数の構成とよみ方を理解している。《観察・発言》 |
| | 2 | 92 | ○4 位数について，十進位取り記数法にもとづいて，数字で表したり数の構成を説明したりすることができる。 | ・10000 未満の数の表し方<br>《千の位》 | (知技)4 位数を数字で表したり，4 位数の構成を説明したりすることができる。《観察・発言》<br>(知技)空位のある場合の 4 位数を数字で表すことができる。《ノート》 |
| | 3 | 93 | ○100 を単位として，そのいくつ分になるかを考え，数の相対的な大きさをとらえることができる。 | ・100 を単位とする数の相対的な見方 | (思判表)100 を単位にして，数の大きさを考えている。《観察・ノート》<br>(知技)100 を単位にした数の構成や分解ができる。《ノート・発言》 |
| | 4 | 94 | ○1000 のまとまりをつくって数える操作を通して，10000 という数の構成や数の系列をとらえることができる。 | ・10000 という数の意味，構成<br>《10000，一万》 | (知技)1000 のまとまりを数えることを通して，10000 という数の大きさをとらえることができる。《観察》 |
| | 5 | 95 | ○数直線の目盛りの大きさに着目し，10000 までの数の系列や順序，大小関係について理解することができる。 | ・10000 までの数の系列，大小比較 | (思判表)数直線などを使って，数の系列や順序をいろいろにとらえている。《発言・ノート》<br>(知技)10000 までの数の大小関係を理解し，不等号を使って表すことができる。《ノート・発言》 |
| ●れんしゅう | 6 | 96 | ○学習内容を確実に身につける。 | ・練習 | |
| 学びの まとめ | 7 | 97 | ○学習内容の理解を確認する。 | ・評価とふりかえり | |

## 16　はこの　形

| 目　標 | 指導時数・時期 |
|---|---|
| ○　箱の形について，観察を通して構成要素を調べたり，図形を構成したりすることを通して立体図形の性質やその見方・考え方をとらえさせるとともに，生活や学習に活用しようとする態度を養う。 | 5 時間<br>2 学期制：2 月下旬<br>3 学期制：2 月下旬 |
| 評　価 | |
| (知)・箱の形を構成する要素(面，辺，頂点)とそれらの数を知る。また，面と面のつながり方や位置関係をとらえ，工作用紙やひご，粘土玉を使って，箱の形やさいころの形をつくることができる。<br>(思)・箱づくりを通して，箱を構成する要素(面，辺，頂点)に着目して，箱の形の特徴を見いだすことができる。<br>(態)・箱の形に関心をもって，箱の形を観察したりつくったりしようとする。 | |

| 小単元 | 時 | ページ | 目　標 | 学習内容 | おもな評価規準 |
|---|---|---|---|---|---|
| じゅんび | — | 125 | ○既習事項の理解を確かめる。 | ・1 年「いろいろなかたち」<br>・2 年「三角形と四角形」 | |
| (課題設定)<br>①はこの 形 | 1 | 98<br>99～100 | ○いろいろな箱を観察して，箱の形について調べていくという単元の課題をつかむ。<br>○面の形を写し取り，箱の面について調べる。 | ・身のまわりの箱を観察することによる学習の動機づけ<br>・箱の形の面とその数<br>《面》 | (態度)箱を観察して，意欲的に箱の面の形や数について調べようとしている。《観察・ノート》<br>(知技)箱の面の形や数について理解している。《観察・発言》 |
| | 2 | 101 | ○箱の辺や頂点について調べる。 | ・箱の形の辺，頂点とそれらの数 | (思判表)図形の構成要素やその関係に着目し，箱の辺，頂点について調べている。《観察》<br>(知技)箱の辺，頂点の数について理解している。《観察・発言》 |
| ② はこづくり | 3 | 102 | ○面をつないで箱を作ることを通して，面の位置関係についての理解を深める。 | ・工作用紙を使った箱づくり（面構成） | (知技)箱を作るのに必要な面の形や数を理解している。《作品》<br>(思判表)形が同じ面や長さの等しい辺に着目して，箱をつくっている。《観察・発言》 |
| | 4 | 103 | ○ひごと粘土玉を使って箱の形をつくることを通して，辺や頂点の位置関係の理解を深める。 | ・ひごと粘土玉を使った箱の形づくり（点構成，線構成） | (知技)箱の形をつくるのに必要なひごの本数や長さ，粘土玉の個数を理解している。《作品》<br>(思判表)長さの等しい辺や頂点の位置に着目して，箱の形をつくっている。《観察・発言》 |
| 学びの まとめ | 5 | 104～105 | ○学習内容の理解を確認する。 | ・評価とふりかえり，活用問題 | |

## 17　分　数

| 目　　標 | 指導時数・時期 |
|---|---|
| ○　分数について，半分をつくる活動を通して 1/2 の意味を理解し，1/2 の半分やさらにその半分の大きさを調べたり，もとの大きさと分数で表された大きさの関係を考えたりすることを通して，簡単な場合の分数の意味を理解することができるとともに，生活や学習に活用しようとする態度を養う。 | 4 時間<br>2 学期制：3 月上旬<br>3 学期制：3 月上旬 |
| 評　　価 | |
| (知)・具体的な操作を通して 1/2 や 1/4 の意味を実感的に理解し，その大きさをつくったり分数で表したりすることができる。<br>(思)・半分を 2 等分，半分の半分を 4 等分というように考えて，分数の意味をとらえることができる。また，図をもとに考えて，12 個の 1/3 は 4 個というように表現したり，4 個の 3 倍は 12 個というようなことに気づいたりすることができる。<br>(態)・半分や半分の半分などの大きさの表し方に関心をもち，分数で表そうとする。 | |

| 小単元 | 時 | ページ | 目　　標 | 学習内容 | おもな評価規準 |
|---|---|---|---|---|---|
| じゅんび | ― | 125 | ○既習事項の理解を確かめる。 | ・1 年「おなじかずずつ」 | |
| (課題設定) | 1 | 106<br>107 | ○半分の大きさをつくり，その表し方について調べていくという単元の課題をつかむ。<br>○半分の大きさの作り方を考えることができる。 | ・半分にわけることによる学習の動機づけ<br>・正方形や長方形，円の紙を折って半分の大きさをつくること | (態度)半分の分け方に関心をもち，半分の大きさをいろいろつくろうとしている。《観察》<br>(思判表)もとが同じなら，半分の形が違っても同じ大きさといえることに気づいている。《観察・発言》 |
| | 2 | 108 | ○テープを折って半分の大きさをつくることを通して，1/2 (二分の一) という表し方とその意味について理解する。 | ・1/2 の定義　《1/2》 | (知技)1/2 の意味を理解し，1/2 の大きさを選んだり，表したりすることができる。《ノート・発言》 |
| | 3 | 109 | ○テープを折って半分の半分の大きさをつくることを通して，1/4（四分の一）という表し方とその意味について理解する。<br>○1/8 について知る。 | ・1/4 の定義，1/8 の定義　《1/4，分数》 | (知技)1/4 の意味を理解している。《観察・発言》<br>(思判表)1/2 や 1/4 の意味をもとにして，全体を 8 等分した 1 つ分を 1/8 ととらえることができる。《観察・発言》 |
| | 4 | 110～111 | ○1/3 について知り，1/2 や 1/3 の大きさを図に表すことができる。<br>○もとの大きさとその 1/2 や 1/3 の大きさの関係を調べたり，もとの大きさが違うときの 1/2 や 1/3 の大きさを比べたりする。 | ・図を使って 1/2 や 1/3 にあたる数を求める問題 | (知技)1/2 や 1/3 の大きさを図を使って表すことができる。《ノート・発言》<br>(思判表)もとの大きさが違うと 1/2 や 1/3 の大きさも違うことに気づき，そのわけを説明している。《ノート・発言》 |

## 活　わくわく算数ひろば

| 小単元 | 時 | ページ | 目　　標 | 学習内容 | おもな評価規準 |
|---|---|---|---|---|---|
| ●何番目 | 1 | 112～113 | ○いろいろな順序数の問題を，図にかいて考えることができる。 | ・順序数と集合数の問題 | (思判表)問題場面を簡潔な図に表し，それをもとに考えたり説明したりしている。《発言・ノート》 |
| ●よみとる算数 | 2 | 114～115 | ○日記から必要な情報をよみ取り，いろいろな問題を解決する。 | ・長文などの情報選択 | (知技)文章から問題を解くのに必要な情報を選択することができる。《発言・ノート》<br>(思判表)情報をよみとって，ある事柄が正しいかどうかを判断して説明している。《発言・ノート》 |

## ＊　もう　すぐ　3 年生（2 年のふく習）

| 小単元 | 時 | ページ | 目標 | 学習内容 | おもな評価規準 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 1 | 116～117 | ○2 年生の学習内容の確認と持続 | ・復習 | |
| | 2 | 118～119 | | | |
| | 3 | 120 | | | |

## ★　学びの　サポート

| ページ | 学習内容 | 指導時数 |
|---|---|---|
| 122～125 | ・じゅんび | |
| 126～133 | ・もっと　れんしゅう | |
| 134～144 | ・算数しりょうしゅう | |

※巻末にある「学びのサポート」は，少人数学習や自学自習など柔軟な扱いができるように時間配当をしていません。
すべての児童が一律に学習する必要はありません。